

第4条関係

提案内容
<p>■公園名*³ 深草瓦町公園・西伊達公園</p>
<p>①現状の課題（自由記述）</p> <p>深草瓦町公園・西伊達公園エリアには、公園のほか、小中学校や福祉事業所などが近接しています。しかし現状では、多様な子どもたちが「同じ地域にしながら、お互いの存在を知らず、交わることのないまま」育っている状況があります。</p> <p>たとえば、支援学校に通う子どもたちは放課後等デイサービスを利用することが多く、学校生活・放課後のいずれの場面でも、障害のない子どもたちと関わる機会がほとんどありません。生活の場が分断されていることで、同じ地域に暮らしているながら「互いを知らない存在」になってしまっているのです。</p> <p>本来、誰もが自由に利用できるはずの公共の場＝公園が、その接点の役割を果たせていないという課題があります。</p> <p>「公園に行けない」「行きにくい」人たちがいる公園に多様な人々が集まりにくい現状があり、以下のような課題が見られます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 身体的障害をもつ子どもたち 車いすや運動機能に制限のある子どもは、既存の遊具を利用できないことが多い。バリアフリー設計が不十分で、そもそも公園へのアクセスが困難。2. 放課後等デイサービスを利用する子どもたち 地理的・物理的・心理的なハードルにより、公園への移動や利用が難しい。地域の子どもたちとの交流の機会が少なく、孤立しがち。3. 発達障がいのある子どもたちの“見えにくい困難” 遊具を使って遊べる場合でも、感覚過敏、人混み、予測のつかない状況などに不安やストレスを感じやすい。周囲への気遣いから、家族が公園利用を控えることもある。4. 公園の「禁止事項の多さ」が生む疎外感 「ボール遊び禁止」「大声禁止」などのルールが多く、子どもたちの自由な遊びを制限している。遊びの場としての魅力が失われ、自然と足が遠のく。 <p>インクルーシブな公園づくりと、地域全体で多様な人々が共に育ち合える“共生の場”の再構築が、非常に重要であり、求められていると考えています。</p>

第4条関係

②公園をこんな場所にしたい（自由記述）

『インクルーシブな社会の実現に向けて、まずは公園から実験・体感！』

現在、インクルーシブな環境はまだほとんど存在せず、実際に体感できる機会も多くありません。だからこそ、まずは実験的にそのような環境を公園につくり出すことで、あらゆる人にとって新たな価値観との出会いの場となることを目指しています。これまで分けられていた場所や環境を、みんなが自然に共有できる空間に変えていくことは、これからの社会にとって多くのメリットをもたらし、不可欠な取り組みだと考えます。

深草瓦町公園・西伊達公園エリアには、公園のほか、小中学校や福祉事業所などが近接しています。こうした地域資源をつなぎ、多様な人々（障害の有無、国籍、年齢などの違いを超えたすべての人）が共に過ごし、自然に交わる「地域の育ちの場（遊び、学び合える場所）」を創出したいと考えています。

- 「みんなで創る・みんなが集う・みんなが育つ」公園へ
- 子どもから高齢者まで、誰もが楽しく安心して過ごせる場所
- 子どもの頃から「違いがあるのが当たり前」という環境で育つことが、将来のインクルーシブな社会づくりにつながる

こうした取り組みを地域に根づかせ、やがては他の地域へも広げていきたいと考えています。

③公園でやってみたい活動提案*4（自由記述）

【SWAY FUN（インクルーシブ遊具）の設置】

- 車いすのままでも遊べる遊具を設置することで今まで公園に行きにくかった人たちの物理的、心理的ハードルを下げる。
- クラウドファンディングなどを利用し、より多くの人へインクルーシブ公園への関心や取組を広げる。
- SWAY FUN（スウェイファン）は、障がいのある子どもはもちろん、子どもから大人まで楽しめる。
- SWAY FUN が、昔ながらの公園に置いてあるとインパクトもあり、魅力的な公園になる。

【パークシネマ@深草瓦町公園】

- 公園の壁に投影させて、野外上映会を実施。
- 山城総合運動公園で「パークシネマ」の実施実績あり
- 上映イベントでたくさん子どもたちに参加してもらおう。また、障がいのある子どもやその家族への配慮があるイベントにすることで多様な人が集う環境を作る

第4条関係

- 近くの放課後等デイサービスの事業所での着替え、食事、介助の場所の提供
- 深草瓦町瓦町公園は屋根があるので、暑さや対策や雨天でも可能。
- キッチンカー出店の場合、食事形態の対応
- クールダウンスペース（スノーズレンドーム）などの設置

【公園の清掃(おかしのプレゼント付き)】

- 公園愛護協力会の清掃活動に参加。
- 子どもたちには「おかしプレゼント」などで楽しみながら関わってもらいたい。

【スケートボード】

- 深草瓦町公園でスケートボードを楽しめる場所をつくる
- 利用者でルールを決める。ただし、地域住民のご意見優先

【視覚支援・わかりやすいルール表示】

- 「禁止事項」ではなく、「どう使えば気持ちよく使えるか」を視覚的に伝えるサインやピクトグラムを設置
- 発達障害な子どもたちなどの見えにくい困難を解消できるような、絵で見て分かるサインを表示することで、障がいのある子はもちろん、小さい子どもや外国の方にも便利なアイテムになる、みんなに優しい工夫のある公園をつくる。

【クールダウンエリア・スペースの実験】

- クールダウンエリアとは、自閉スペクトラム症を抱える方が、刺激によって感情が高ぶったりストレスが高まった時に気分を落ち着かせることのできる場所です。
- 実験的にクールダウンスペースのボックスやエリアをつくり WS などを実施する。学校の授業などで実施することで、見えにくい障がいへの理解を深める事ができるのではないかな？

【「かまどベンチ」の設置・活用】

- 防災の要素を含んだイベント。炊き出し、ピザなど
- 防災訓練
- 平時のつながりが、災害時の「助け合い」にもつながる
→ 障がい者や高齢者など地域に存在を知ってもらう事が防災の第1歩
- 地域連携型の体験学習

【学校連携の総合学習】

- 子どものころから、障害のある子とない子が継続的に関わり合うことは、インクルーシブな社会づくりの基盤としてとても重要です。しかし現状では、支援学校と地域社会が分断されており、子どもたちが日常の中で自然に出会い、関係を築く機会がほとんどありません。本来、子どもたちは互いの違いを受け入れながら、柔軟に関わり合う力を持っています。だからこそ、その関係性が継続して育まれる環境を、

第4条関係

<p>地域の中に積極的に創出していくことが求められています。</p> <ul style="list-style-type: none">● 地域の公園の課題を学び、自分たちで提案● 呉竹総合支援学校×深草中学校、小学校で交流学习● 深草中学校で授業を実施済み● 小学校での総合学習を活用
<p>④希望する内容にチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 地域独自の利用ルールを創りたい。(フェーズ1)<input checked="" type="checkbox"/> サポート団体との連携をしていきたい。(フェーズ2)<input type="checkbox"/> 公園に地域の交流・活動拠点となる施設を造りたい。(フェーズ3)<input type="checkbox"/> その他
<p><input checked="" type="checkbox"/> <u>Park-UP 事業実施要綱等に記載の内容を承知のうえ、応募します。</u> <u>なお、応募条件に抵触しておらず、かつ提案主体としての資格を有することを誓約</u> <u>します。</u></p>